

書 写

I 教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領(平成29年3月)に示された各教科の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

1 教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長	
共通 観点	(1) 教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成、「本県教育が目指す人間像」の育成に資する内容、構成となっているか。
	(2) ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長	
共通 観点	(1) 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。
	(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。
	(3) 主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。
教科 独自 観点	(4) 各教科等の学習活動や社会生活に生かせる書写の能力を育成することができるよう工夫されているか。
	(5) 毛筆の指導は、硬筆の能力の基礎を養うことができるよう工夫されているか。
	(6) 硬筆と毛筆の分量は、適切に配慮されているか。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ(ユニバーサルデザイン)等の観点からの表記・表現や体裁の特長	
共通 観点	(1) 文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。
	(2) 写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。
	(3) レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。

II 選定資料利用上の留意点

- 1 資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。
- 2 利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特色をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。
- 3 前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。

Ⅲ 具体項目

発行者		東 書	三省堂	教 出	光 村
観点					
1 を 図 る 上 で の 特 長	(1) 「 教 育 の 特 質 に 応 じ て 、 「 教 育 の 目 的 」 及 び な っ て い る か。 「 人 間 像 」 の 育 成 に 資 す る 内 容 、 構 成 と	<ul style="list-style-type: none"> 「いろは歌」や、文字の成り立ちと移り変わり、伝統的な文字絵など、文字文化に関する題材を取り上げることで、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養うことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の成立や、その字源となった漢字の歴史、「伝達」に関する文字文化について取り上げることで、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養うことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字の変遷や、歴史上の人物が残した文字、日本建築と書など、文字文化の豊かさに触れる題材を取り上げることで、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養うことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字の歴史や平仮名の成立、「源氏物語」が千年に渡り受け継がれてきた歴史など、文字文化に関する題材を取り上げることで、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養うことができるよう配慮されている。
	(2) ふ る さ と 長 崎 の 伝 統 ・ 文 化 や 歴 史 、 自 然 に つ い て 理 解 を 深 め る 学 習 に 生 か せ る 題 材 が 扱 わ れ て い る か。	<ul style="list-style-type: none"> 1年「年賀状を書こう」には、「長崎」の行書の手本が掲載されている。また、2年「文字と絵」には、長崎県のシンボルマークとその解説が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年「書いて身につけよう」には、「長崎」の行書の手本とともに、長崎の特産品であるカステラが掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年「新聞を書く」には、題字例の中に長崎新聞の題字の写真が掲載されている。また、3年「多様な表現による文字」には、島原城の石碑の写真が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年「全国文字マップ」には、大浦天主堂にある「天主堂」の文字の写真が掲載されている。また、巻末の「はがきの書き方」には、「長崎」の手本が掲載されている。

Ⅲ 具体項目

発行者		東 書	三省堂	教 出	光 村
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、 確かな学力の育成を図る上での特長	観点				
	(1) 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。	<ul style="list-style-type: none"> 「書写のかぎ」において、学習事項を焦点化するとともに、自己評価に役立つ「まとめ」と「書写テスト」を設けることで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。 毛筆の学習においては、朱墨の濃淡で筆使いを示すとともに、行書の特徴的な動きを「二・十・口・人」に類型化することで、筆使いの基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入部分に単元の基本構成を示したり、各教材冒頭の「書き方を学ぼう」において、学習のポイントを明確に提示したりすることで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。 毛筆の学習においては、朱墨の濃淡や青線・青点線で筆使いを示すとともに、楷書と行書の違いを比較できるように並べて配置することで、筆使いの基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「書写をとおして学んでいくこと」において、身に付ける力を系統的・段階的に図示することで、学習に見通しをもち、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。 毛筆の学習においては、朱墨の濃淡や運筆の写真を用いて筆使いを示すとともに、「考えよう」では、習得した知識を書いて確かめる欄を設けることで、筆使いの基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教材に「学習の窓」を設け、学習のポイントを示すとともに、硬筆について、繰り返し練習することができる「書写ブック」を設けることで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。 毛筆の学習においては、朱墨の濃淡や運筆の写真を用いて筆使いを示すとともに、楷書と行書の違いを比較できるように並べて配置することで、筆使いの基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるよう工夫されている。
	(2) 知識・技能を断るが、活用し得る力を要する課題を工夫されている。	<ul style="list-style-type: none"> 「生活に広げよう」において、手紙・本のポップなど、具体的な場面に応じて、何をどのように書けばよいのかを考える活動を設定することで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「書いて身につけよう」において、日常生活・社会生活で使う言葉や書き方を硬筆で練習する活動を設定することで、実践的な力の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習を生かして書く」において、教材を通して身に付けた力を、各教科等や日常生活など、様々な場面で活用する活動を設定することで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「目標を書こう」や「日常に役立つ書式」において、書写で身に付けた力を学校生活や日常生活に生かせるような活動を設定することで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。
(3) 主体的に学習に取り組むことができるか。	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方を「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返って話そう」「生活に広げよう」と明示することで、学習内容や到達度を生徒が確認したり、生徒同士で意見や考えを交流したりすることを通して、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れを「目標を確かめよう」「書き方を学ぼう」「見つけよう・考えよう」「毛筆で書こう」「学習を振り返ろう」「書いて身につけよう」「自分の言葉でまとめよう」と明示し、学習内容や到達度を生徒が確認することで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方を「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」「学習や日常生活に生かそう」と明示することで、内容や到達度を生徒が確認したり、生徒同士で意見を交換したりすることを通して、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方を「考えよう」「確かめよう」「生かそう」と明示することで、生徒が見通しをもって学習に取り組んだり、生徒同士で意見を交換したりすることを通して、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 	

Ⅲ 具体項目

観 点 発行者	東 書	三省堂	教 出	光 村
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、	(4) 各教科等の学習活動や社会生活に生かすことができるよう工夫されている。 ・「生活に広げよう」や巻末の「書写活用ブック」において、手紙や本のポップ、パンフレットなど、生活場面や各教科等の学習と連動した題材を提示することで、言語活動や社会生活に生かすことができるよう工夫されている。	「やってみよう」や巻末の「資料編」において、新聞や情報誌、名言集など、各教科等の学習や生活に関連した教科等横断的な題材を提示することで、言語活動や社会生活に生かすことができるよう工夫されている。	「学校生活に生かして書く」や巻末の「書式の教室」などにおいて、ポスターや案内状など、各教科等の学習や実社会につながる題材を提示することで、言語活動や社会生活に生かすことができるよう工夫されている。	「行書を活用しよう」や巻末の「日常に役立つ書式」などにおいて、学級目標や看板、冊子など、書写で身に付けた資質・能力を活用する題材を提示することで、言語活動や社会生活に生かすことができるよう工夫されている。
確かな学力の育成を図る上で、	(5) 毛筆の指導は、硬筆の能力の基礎を養うことができるよう工夫されている。 ・楷書、行書の学習において、毛筆の学習のあとに硬筆で振り返り学習を行い、単元末に「まとめ」として硬筆での練習（硬筆での練習枠・欄あり）を配置することで、学習内容の定着を図るとともに、硬筆への意識付けや、硬筆の基本的な技能を習得することができるよう工夫されている。	楷書、行書の学習において、毛筆の学習のあとに硬筆で繰り返し練習する「書いて身につけよう」（硬筆での練習枠・欄あり）を複数ページにわたり配置することで、学習内容の定着を図るとともに、硬筆への意識付けや、硬筆の基本的な技能を習得することができるよう工夫されている。	楷書、行書の学習において、いずれも最初に硬筆で試し書きを行い、毛筆練習を行ったのち、単元末に「学習を生かして書く」として硬筆での練習（硬筆での練習枠・欄あり）を配置することで、学習内容の定着を図るとともに、硬筆への意識付けや、硬筆の基本的な技能を習得することができるよう工夫されている。	楷書、行書の学習において、毛筆の学習の後に硬筆で振り返り学習を行い、さらに「書写ブック」（硬筆での練習枠・欄あり）において毛筆の要素とリンクさせながら硬筆練習を行うことで、学習内容の定着を図るとともに、硬筆への意識付けや、硬筆の基本的な技能を習得することができるよう工夫されている。
の特長	(6) 硬筆と毛筆の分量は、適切 ・各学年の毛筆と硬筆の本文における割合は、硬筆にやや重きを置く配分となっているが、硬筆と毛筆に関連付けた単元構成にすることで、効果的な指導ができるよう配慮されている。	各学年の毛筆と硬筆の本文における割合は、毛筆の後に硬筆で繰り返し書いて学びを確かなものにする活動を配置することで、毛筆と硬筆が、ほぼ均等な配分となるよう配慮されている。	各学年の毛筆と硬筆の本文における割合は、学年ごとに差はあるが、毛筆学習の前後に硬筆の欄を設けるとともに、3年間でバランスをとることで、ほぼ均等な配分となるよう配慮されている。	各学年の毛筆と硬筆の本文における割合は、毛筆にやや重きを置く配分となっているが、「書写ブック」において硬筆で書く活動を豊富に設定することで、適切な配分になるよう配慮されている。

III 具体項目

観点	発行者 東 書	三省堂	教 出	光 村
<p>3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長</p>	<p>(1) 文章は、質・量ともに分かちやすさ、適切な記述となっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章表現は、主に常体であり、学習のポイントや流れを「書写のかぎ」として、短い言葉で簡潔にまとめることで、生徒が理解しやすくなるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章表現は、主に常体であり、学習のポイントや流れを言葉や文とともに、マークや色枠で強調して示すことで、生徒が理解しやすくなるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章表現は、主に常体であり、学習の目標を明確かつ端的に示すことで、生徒が目標を確認したり、学習を振り返ったりしやすくなるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章表現は、主に常体であり、学習の内容や流れを明確かつ端的に示すとともに、大きな文字で強調することで、生徒が理解しやすくなるよう工夫されている。
	<p>(2) 写真、挿絵、図表などは、学習内容との関連や学習意欲を高めるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元末の「生活に広げよう」では、様々な教科の学習活動、日常生活の中で扱う書式や内容をイラストを交えて示したり、「文字のいづみ」では実際の事物の写真に掲載したりすることで、生徒の興味、関心を引き出し、学習意欲を高めることができるよう配慮されている。 学習のポイントをキャラクターのセリフとして提示することで、学習効果を高めることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年「身のまわりの文字」では、日常生活における身近な文字の写真が掲載されている。また、巻頭の「学習のはじめに」では、姿勢や筆の持ち方などを大きな写真を用いて示すことで、生徒の興味、関心を引き出し、学習意欲を高めることができるよう配慮されている。 学習の留意点をキャラクターのセリフとして提示することで、学習効果を高めることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元末の「コラム」では、書写に関連する様々な事物が写真で掲載されている。また、全体を通して事物や作品、中学生が学習している場面の写真を多く掲載することで、生徒の興味、関心を引き出し、学習意欲を高めることができるよう配慮されている。 行書の運筆の特徴を部分的に拡大して示すことで、学習効果を高めることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「コラム」「学校生活・日常生活」「やってみよう」では、日常生活における書写に関連する事物を写真とイラストを組み合わせることで、生徒の興味、関心を引き出し、学習意欲を高めることができるよう配慮されている。 各単元の「確かめよう」では、運筆の連続写真を用いることで、学習効果を高めることができるよう配慮されている。
	<p>(3) 挿絵や活字の適用、紙質、文字の大きさ等に配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> AB判で、毛筆教材は見開き2ページで構成され、右ページに学習過程を、左ページに毛筆教材文字及び学習のポイントが分かるインデックスを配置することで、何をどのように学ぶかを捉えることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> B5判で、毛筆教材は見開き2ページで構成され、右ページに学習のポイントなどを、左ページに毛筆教材文字及び振り返りを配置することで、学習の見通しをもち、主体的に学習を進めることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> AB判で、毛筆教材は見開き2ページで構成され、右ページに半紙形の毛筆教材文字を、左ページに学習の進め方を配置することで、段階的に理解を深めることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> B5判で、行書の主要教材は4ページで構成され、前半2ページに学習の流れを、後半2ページに半紙原寸大の毛筆教材文字を配置することで、学習の要点を視覚的に捉えることができるよう配慮されている。